

地域新聞 みあき 第16号

地域新聞みあき製作委員会
令和4年6月1日 発行
連絡先 ✉ info.miaki@gmail.com
公式HP 🌐 https://www.miaki.org



令和4年度（令和4年度）改選となりまして、総代2名の皆さんをご紹介いたします。以下、次の形式にて記載。

①氏名（フリガナ）・役職・年令
②新年度への抱負について
③地域新聞みあきに期待すること
④住民の皆さんへ一言

レコンファーム三秋 始動！
（文責）原田 浩明
新年度がスタートした4月、今年で開園4年目となる『レコンファーム三秋』に



実際に掘り出した種レンコン

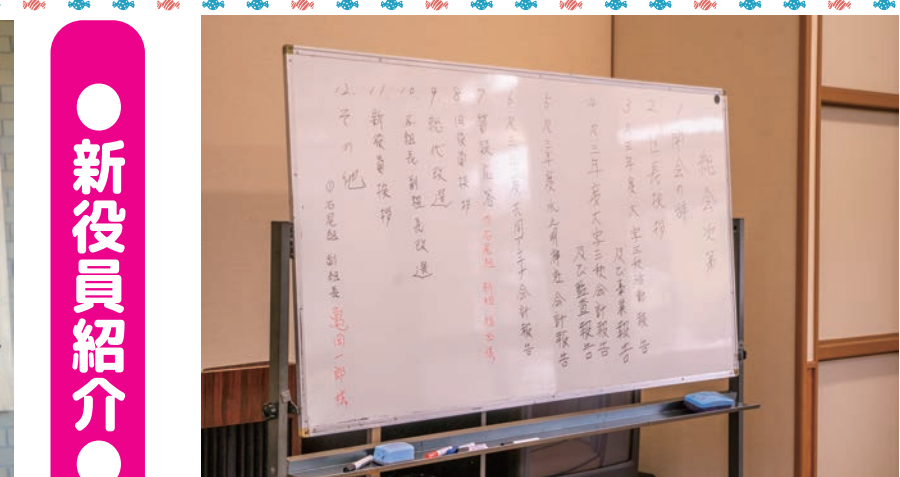
令和4年3月13日、三秋地区通常総会が三秋集会所にて行われた。今年も、新型コロナウイルス対策として密にならぬよう、昨年に続き、各組新旧の組長及び三役のみの出席となった。例年通り、活動報告及び会計報告等肅々と会は進行し、途中、新規加入者の紹介を、谷本隆英さん、藤井元男さんが選ばれた。令和4年度は、区長・西村さん（2年目）、専務総代・谷本さん、総代・藤井さんの体制でスタートする。



左から藤井新総代、西村区長、谷本新専務総代



総会の様子



総会次第

●新役員紹介●
①谷本隆英（タニモトカヒデ）・専務総代・63歳
②1日も早いコロナの終息。
③三秋じゃないと出来ない事、三秋にしかない物を発掘して下さい。三秋に行ってみよう。とみんながよって来るように。
④三秋に住んで良かった、三秋に生まれて良かったと思えるようにしよう。
①藤井元男（フジイモトオ）・総代・65歳
②自然災害の脅威は日々確実に増大し、やがて来るであろうゲリラ豪雨、南海トラフ地震等に備えて再度地域を見直し、災害発生には、隣近所に声を掛け合える環境を整えよう。
③普段近所の狭い地域での出来事等が主な情報でありましたが、三秋の幅広い情報が得られ、毎号楽しみにしており、今後の更なる情報の提供に期待しております。
④1年間何事もなく、平々凡々に役目が果たせるように願っております。コロナ終息、ウクライナ終息。



水張りした田んぼの状態にする。最後に、掘り出した種レンコンを一定の間隔をとりながら、少し芽が見える程度の深さに植え込んでいく。そこには、額に汗を流しながら、今年も立派な種レンコンが育つことを祈る。



種レンコン植え込みを实践



芽を傷つけないよう慎重に掘り進める皆さん



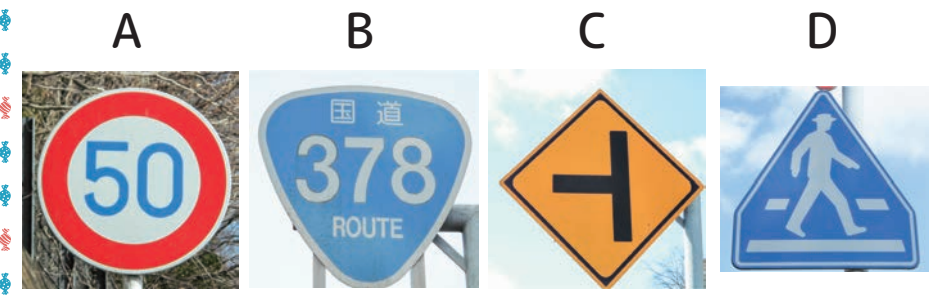
植え込み方について指導を受ける愛大生

令和4年度新体制 決まる
（文責）原田 浩明

くれることを願う皆さんの姿があった。

読者プレゼントコーナー～道路標識に関するクイズ～

Q. 三秋地区内を通る国道378号線には、道路標識が数多く設置されています。A～Dは、次のうちの標識に該当するでしょうか。



①規制標識 ②指示標識 ③警戒標識 ④案内標識

応募方法
①クイズの答え A-() B-() C-() D-() ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号
⑥本紙の感想などを明記の上、郵便ハガキ・Eメール・公式HPの応募フォーム（下記のQRコードからアクセス）のいずれかにてご応募ください。正解者の中から抽選で1名の方に図書カード500円分をプレゼントいたします。

宛先 〒799-3124 伊予市三秋甲271-2 地域新聞みあき事務局 宛
Eメール info.miaki@gmail.com
応募締切 2022年9月5日（月）必着
当選発表 本紙第17号にて

※ご応募いただいた皆様の個人情報は事務局にて厳重に管理し、プレゼントの発送以外の目的では使用いたしません。

第15号のクイズの答えと解説

答え 答え A-(2) B-(1) C-(4)

解説 消防水利・消火栓・防火水そうは、消火活動には欠かすことのできないもので、火災が発生したときに、消火に必ず必要となる水を消防隊に供給します。標識以外にも、蓋などに黄色の塗料で目立つように塗装した表示がなされています。これらの周辺は、駐車禁止になっています。消火活動の妨げにならないように、注意しましょう。

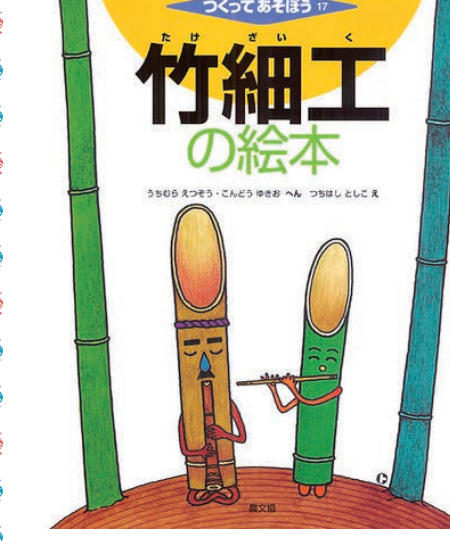


当選者は伊予市の永田さんです。おめでとうございます。

おいせ
皆さんの家に古い写真が眠っていませんか？昔の風景やお祭り等、三秋に関する昔の写真がございましたらご連絡ください。また、その他の投稿・情報・写真も随時お待ちしております。★みあきの○○○★うちの家族を紹介します etc...。自薦他薦問いません。お近くの当紙編集委員もしくは、メールにてご連絡下さい。info.miaki@gmail.com

公式 Instagram
miakinews
地域新聞みあきの公式Instagramの方でも随時情報をUPしております。こちらのフォローの方も宜しくお願いします。

みあき図書館（文責・岡田 有利子）



『つくってあそぼう17 竹細工の絵本』
内村悦三・近藤幸男（編）土橋とし子（絵）
農山漁村文化協会

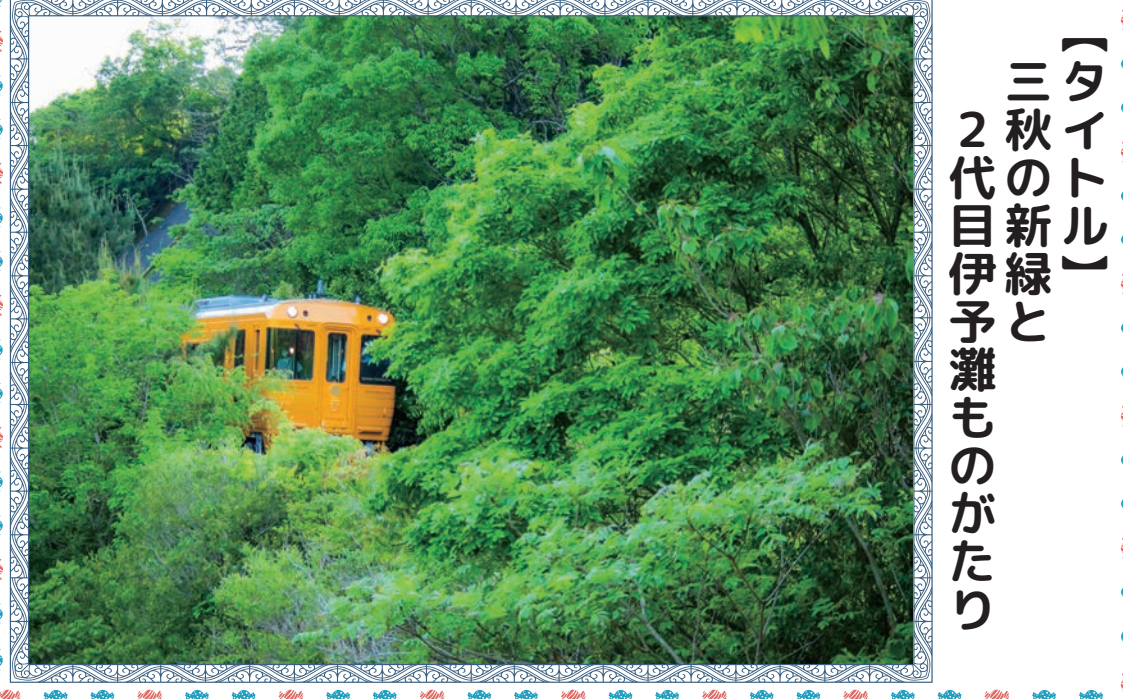
「竹」や「竹林」と聞くと、どんなイメージを持つでしょうか。正直なところ私の周囲では、少々やかい存在だと捉えます。伝統工芸の花器や茶道具、適切な手入れがされた竹林を美しく眺めることはありますが、それは少し実生活から離れているような。そして身近にある竹林は、その生長の速さから手入れが追いつかず、広がり続けて圧迫する。

そのため、この三秋地区で、その竹を楽器として活用すると聞いた時は、とても良い取り組みだと思いました。豊富にあるものを資源として使う。材料費が安いでなく、むしろ困りものの「竹」が利用されれば、それは願ってもないことです。この本は、竹利用の歴史や文化の紹介に併せて、含水率・収集率・強度・弾力性など、竹の物理的な性質もわかりやすく教えてくれる農山漁村文化協会の「手づくり加工絵本シリーズ」の一冊です。知るだけでなく作る絵本であり、竹ひごや四つ目編みかご、網代編みや六つ目編み花かごの作り方が掲載されています。その網目模様の美しさには、ちょっと引き込まれてしまいそう。

人の心にうたえる力。それが竹には備わっているのかもしれませんが。技や知恵が継承された竹民具の美しさはもちろんですが、成長の速さである竹の生命力が、その便利さにも繋がっています。かつて音楽は折りでした。生命力あふれる竹で、楽器をつくる意味もあったのでしょうか。

昨年のれんこん収穫体験会で、実際に竹楽器の音色を聞きました。電子音とは異なり、とても気持ちよく心に響きます。遊ぶ子どもたちの姿もほほえましく、いつまでも聞いていたいと思いました。便利になりすぎた機械に使われることの多い現代、竹は、実は人間の力を引き出してくれる素材でもあるような気がします。豊富に入手できること、人間の生活を便利にすること、人の感覚を豊かにすること。それらの力こそ、普段の暮らしに根付き、持続的に利用されるものだと思います。これから続く三秋地区の竹楽器の広がりも、楽しみなものです。

みあき写真館（撮影・ヒロ）



「タイトル」三秋の新緑と2代目伊予灘ものがたり

編集後記

コロナ禍になってから今年で3年目。世間では、感染対策に関する様々な規制が少しずつ緩和されてきて、中止になっていたイベント等も徐々に再開されてきているようです。当新聞の感染状況を加味しながらではありますが、中止にしていたイベント可能な範囲で再開していこうと思います。まずは、ホテル観覧会（6月4日開催予定）を再開いたします。詳細は、回覧板のチラシ及び公式Instagramにて。

